

市のキャッチフレーズ

日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市

本市が「日本のまんなか」に位置することを市内外に印象づけ、利根川、吾妻川の豊かな「水」や、赤城山、榛名山などの「緑」あふれる雄大な自然、伊香保温泉をはじめ各地区に点在する温泉など豊富な観光資源をアピールし、本市の魅力をわかりやすく伝えるための市のキャッチフレーズとしました。

市の花 あじさい



あじさいは、丈夫で育てやすく、多くの家庭の庭先に見られ、誰にも親しまれています。また、小野池あじさい公園や渋川市総合公園など多くの公共施設に植栽され、その育成に市民のボランティア活動もかかわっています。

このような背景と花びらが仲良く集まって咲く姿が、合併して一つになった市のイメージに合っています。



あじさいは、6～7月に鮮やかな色の花を咲かせます。しかし、一見、花のように見えるのは、実はガクで、本当の花ではありません。あじさいの花自体は、小さいため目立ちません。

あじさいは、乾燥を嫌うので、半日陰で土が常に湿っている場所に植えるのが良いでしょう。

市の木 もみじ



もみじは、子どもからお年寄りまで誰もが知っていて親しまれている木です。初夏の新緑と秋の紅葉との色の対比が素晴らしく、葉の色の移り変わりに四季を感じさせ、本市が豊かな自然に恵まれていることを実感させてくれます。

このような背景と人の手の形に似たもみじの葉が、手と手を取り合って新市が一体になったイメージを感じさせます。



もみじには、「揉み出す」が語源であるという説もあります。これは、紅花染めで、紅花の花弁から紅の色を揉み出すところに由来するものです。

もみじは、秋にきれいな紅葉を鑑賞できるように、日当たり、風通し及び水はけの良い場所に植えるのが良いでしょう。

市の鳥 ほととぎす



ほととぎすは、花鳥風月の鳥を代表すると言われていました。夏の渡り鳥で市内に生息し、その美しく響く鳴き声が、自然の豊かさと雄大さを表します。

また、明治の文豪徳富蘆花が、小説『不如帰（ほととぎす）』の舞台として伊香保を登場させ、伊香保温泉の名が全国に広がるきっかけとなりました。



ほととぎすは、5月から6月頃に渡来し、高原を好んで生息しながら鳴き声を披露してくれます。

ほととぎすのオスは、「キョツキョツ、キョキョキョ」あるいは「テッペンカケタカ」と鳴き、メスは「ピ、ピ、ピ、ピ、ピー」と鳴きます。